

# 博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



日影沢金山遺跡見学会

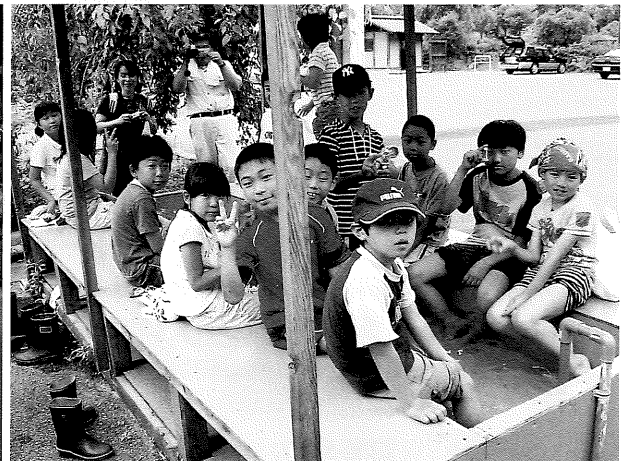


小正月行事「お山飾り」

## 2008年も笑顔が集まる博物館に!!



日曜コンサートを楽しむ皆さん



体験学習を終えてひと休み (町内大河内小)

春の観桜期、何日も猛暑日を記録した暑い夏、秋の行楽シーズン、お正月と、昨年も季節を問わず、大勢のお客様が博物館を訪れてくださいました。博物館運営にあたりましては、各方面の方々からご指導・ご助言、多大なご協力を賜りまして、改めて心から厚く御礼申し上げます。

有料入館者20万人目をお迎えする日ももう目前です。こうした大きな目標も、そして小さな目標も、一つずつ着実に達成しながら、本年も「地域に愛される博物館づくり」を目指し、各種イベント開催や情報発信に努めて参ります。相変わらずのご指導と温かいご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

# 富士山の世界遺産登録へむけて

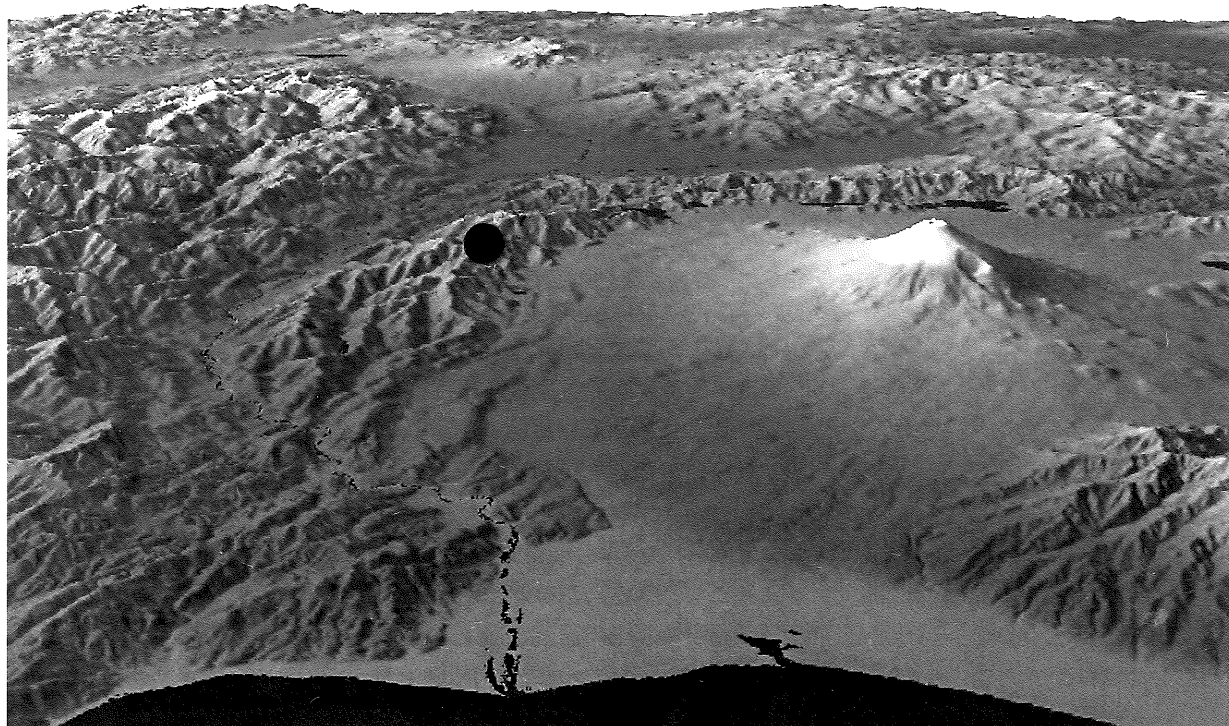
## 構成遺産に「本栖湖」、「甲斐金山遺跡・中山金山」入りを期待

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷口 一夫

世界文化遺産暫定登録となった「富士山」は、2011年度の本登録をめざし、その準備が進められています。その富士山の外輪山ともいえる天子山地（写真①）には、富士五湖の一つ本栖湖や、富士山と対峙する毛無山（山梨の百名山・標高1,964メートル）があり、その山中（標高1,400～1,650メートル）に、採鉱域と精錬場跡

を残す国指定史跡「甲斐金山遺跡・中山金山」があります。

身延町内の構成遺産として「本栖湖」や国史跡「中山金山」を、取り込むことは、文化遺産としての富士山の価値を高めることに直結します。前号（42号）の館だよりでも触れましたように、身延町の活性化にもつながります。



写真① 中山金山（●印）は富士五湖と同じ富士山を取り巻く弧線上に位置する

県の世界遺産推進課からは富士山と中山金山のかかりについて説明が求められています。

そこで今回はそれに答えられる内容にいたします。

### はじめに

まず、これまでの経緯に触れます。金山博物館では、2002年7月から「蝙蝠山の景観をもつ湯之奥3金山」や「修験道で知られる鶏冠山の黒川金山」などで代表される、共に国指定史跡を核に「甲斐金山」の世界遺産が実現しないかと、館外活動で運動を開始し、その後「東国の金山遺跡と黄金文化」（黄金の国ジバング）の括りでの運動に発展させ、館エントランスでの

署名活動なども行って参りました。これは現在でも継続していますが、およそ1万人以上の署名が集まっています。

また館主催の公開講座でも、その学術的な底辺を固めるべく「黄金の国ジバングの深層を探る」をテーマに「産金技術と金もたらしたもの」（平成16年度）5回、「湯之奥金山とその周辺」（平成17年度）5回、「黄金もたらした日本文化」（平成18年度）5回、そして今年度も「金銀鉱山遺跡と黄金文化」のもと3回を終えあと2回を残していますが、これまで第51回公開講座では、世界遺産登録が実現した「石見銀山遺跡～その歴史と登録までの道筋～」（大田

市教委・教育部長大國晴雄氏)、52回では、現在運動を展開している「金と銀の島、佐渡～鉱山とその文化」(新潟県・世界遺産登録推進課・小田由美子氏)、53回では、暫定登録になっている「古代奥州の金～黄金山産金遺跡・世界遺産平泉」(平泉・登録書作成推進委員長・工藤雅樹氏)らの講座を終え、世界遺産のコア(核)とバッファゾーン(緩衝地域)のあり方などを研究してきました。

これらの情報をもとに、検討するとコアを形成するバッファゾーンにある「国レベルの文化遺産」の存在が大きな要素を成すことが明らかになってきました。

世界遺産登録では「黄金の国ジパング」を形成するであろう石見、佐渡、平泉が先行し、日本における産金形態で砂金から初源期の山金に関わる甲斐金山遺跡群が欠落する恐れもあります。したがって富士山のバッファゾーンの中で、中山金山を位置づけることは、甲斐金山全体に通じる評価につながるものになります。

#### 富士五湖と同じ弧線上にある中山金山

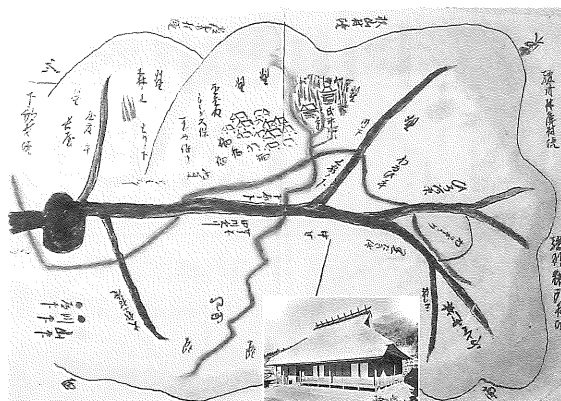
写真①に見られるように、富士山には、半円形の弧を描くように外輪山ともいえる山脈がつづいています。その弧を描く線上に富士五湖も中山金山も位置します。中山金山は、富士山の真西につづく天子山脈にある毛無山山中にある金山で、写真①の(黒丸印)位置にあります。

金山の直近にある地蔵峠からの朝霧高原と富士山の眺望は、富士山を真正面からダイナミックに望める眺望ポイントです。この位置(標高)に文化遺産である国指定史跡があるのも重要な存在です。

#### 確かな歴史をもつ中山金山

中山金山は平成元年から3か年、下部町(現在合併で身延町)が「ふるさと創生事業」として、学術的な位置づけを確立し、観光資源として地域活性化に活用したいという目的で、総合的学術調査を実施し、その歴史の実態が明らかにされたものです。

中山金山の歴史は、8世紀に始まった砂金採掘に変わる日本における初源的な山金山(鉱石からの産金)として、16世紀初頭に開発された金山で、日本における鉱山(採掘)の技術革新を告げるもので、その歴史的価値が評価されています。



湯之奥金山集落絵図と国重文・門西家住宅

中山金山を開発した鉱山技術者である金山衆は、駿河国旧富士郡からの集団で17世紀中ごろまで、中山、内山、茅小屋金山で活躍しました。彼らの動向は内閣文庫に残された「判物証文写」によって読み取れます。

#### 絵図に見る景観が残る湯之奥集落と重要文化財の門西家住宅

また中山金山の裾には、湯之奥集落があります。集落にはこの地に残る入母屋づくりの建造物として国重要文化財に指定されている「門西家住宅」があります。代々名主を務めてきた家で、慶安3年(1650)以降の金山関係文書や鉱山道具を残します。

同家文書の中に江戸後期の集落絵図がありますが、現在でもその中世～近世にかけた湯之奥村の歴史的景観はそのまま残されています。

#### 管理計画によって守られている中山金山

また、国指定史跡「甲斐金山遺跡・中山金山」遺跡は、現在、身延町が管理計画にもとづく管理団体となり保護しています。

さらに中山金山には、その全容をガイダンスする施設、身延町立の「甲斐黄金村・湯之奥金山博物館」が設置され、その歴史を展示・公開しています。

富士山のバッファゾーンには、このような貴重な国史跡である文化遺産がありますが、これらは世界文化遺産登録をめざす、富士山総体の価値を高めるものとなります。

#### 次ページに富士山と金山のかかわりについての自然史的考察

なお次ページには九州大学名誉教授による「富士山と甲斐の金鉱床に共通する自然史的背景について」(2007. 5. 6)の考察を掲載いたしました。

# 富士山と甲斐の金鉱床に共通する 自然史的背景について

九州大学名誉教授 井澤英二

富士山は信仰の対象であり、湯之奥金山は生産活動の場である。互いに関係を持たないように見える両者であるが、自然史的に見れば、その成立には共通の背景があることが指摘できる。

富士山と周辺地域の地質学的現象は、本州と伊豆小笠原弧の衝突を背景として展開された。

フィリピン海プレートが北西方向に移動を始めたのは、今から7百万年ほど前である。プレートの進行につれて、伊豆小笠原の海洋火山島が順次本州に衝突している。丹沢地塊（現在の丹沢山地）が衝突したのが5百万年前で、伊豆地塊（現在の伊豆半島）は百万年前に衝突した。

現在は、新島や三宅島などの伊豆七島の衝突が進行中である（新妻、2006）。この衝突によって、伊豆半島周辺ではフィリピン海プレートの境界が北側に突出している（図1）。また、北側の陸部は急激に隆起している。インド亜大陸がユーラシア大陸に衝突して、ヒマラヤ山脈が成長したのと類似した現象である。

甲府市の北西側に分布する甲府花崗岩体は、1千数百万年前に貫入したマグマが地下数千メートルの深さで固結したものである。丹沢地塊の衝突後に、この花崗岩体は急上昇を始めたと思われる。その後、4百万年前に、南北方向の割れ目系が発達し、マグマの貫入があった。甲府市の北北東10キロメートルのところに、甲府花崗岩体を割って入るように、南北に伸びた花崗閃緑岩（小鳥型）の岩体がある。伊豆地塊の衝突によって、これらの花崗岩体はさらに上昇を続けて、上部を覆っていた地層が剝離された結

果、現在では、地表に広く露出するまでになった。身延町東部にも、南北に伸びた岩脈状の花崗閃緑岩があり、湯之奥金山の含金石英脈と密接な関係を示している。西方の早川町の早川、雨畑川に沿っても、南北に含金石英脈が分布することから、南北方向に伸びた花崗岩体の潜在が推測される。

湯之奥金山の鉱脈は、4百万年前の小鳥型花崗閃緑岩の貫入に伴う熱水活動で生成したと考えられる。生成の温度は摂氏350度以上（井澤ほか、1997）あり、中熱水金鉱床に分類される。地表面下数千メートルの深部で生成した含金石英脈が地表に露出するまでには、通常は数万年の時間の経過が必要である。したがって、活火山の近くに数百万年前という若い地質時代に生成した花崗岩や中熱水金鉱床が露出することはない。ところが、湯之奥金山の含金石英脈は、伊豆地塊の衝突によって、急激に上昇したため、活動中の火山である富士山のすぐ近くで、地表に露頭していて、戦国期の金山衆の採掘の対象となったのである。

一方、富士山は8万年前の古富士火山の活動に始まり、新富士は5千年～9千年前の噴火で、山体の大部分が形成された。山体の堆積は400立方キロメートルで、一般の日本の火山の体積より一桁大きい。プレート沈み込み帯の玄武岩～安山岩の火山としては、世界でも最大級である。このような巨大な山体が生成し維持されているのは、伊豆地塊の衝突によって、富士山の地下にはマグマ溜まりを作る余地がなく、上昇

するマグマのすべてが地表に噴出するためであると理解されている（新妻、1997）。

富士山の巨大で美しい円錐形の火山体も、湯之奥金山の金を含んだ石英脈も、伊豆地塊の衝

突によって、信仰あるいは生産の対象となる自然物として人々の生活の場にもたらされたのである。（2007. 5. 6）

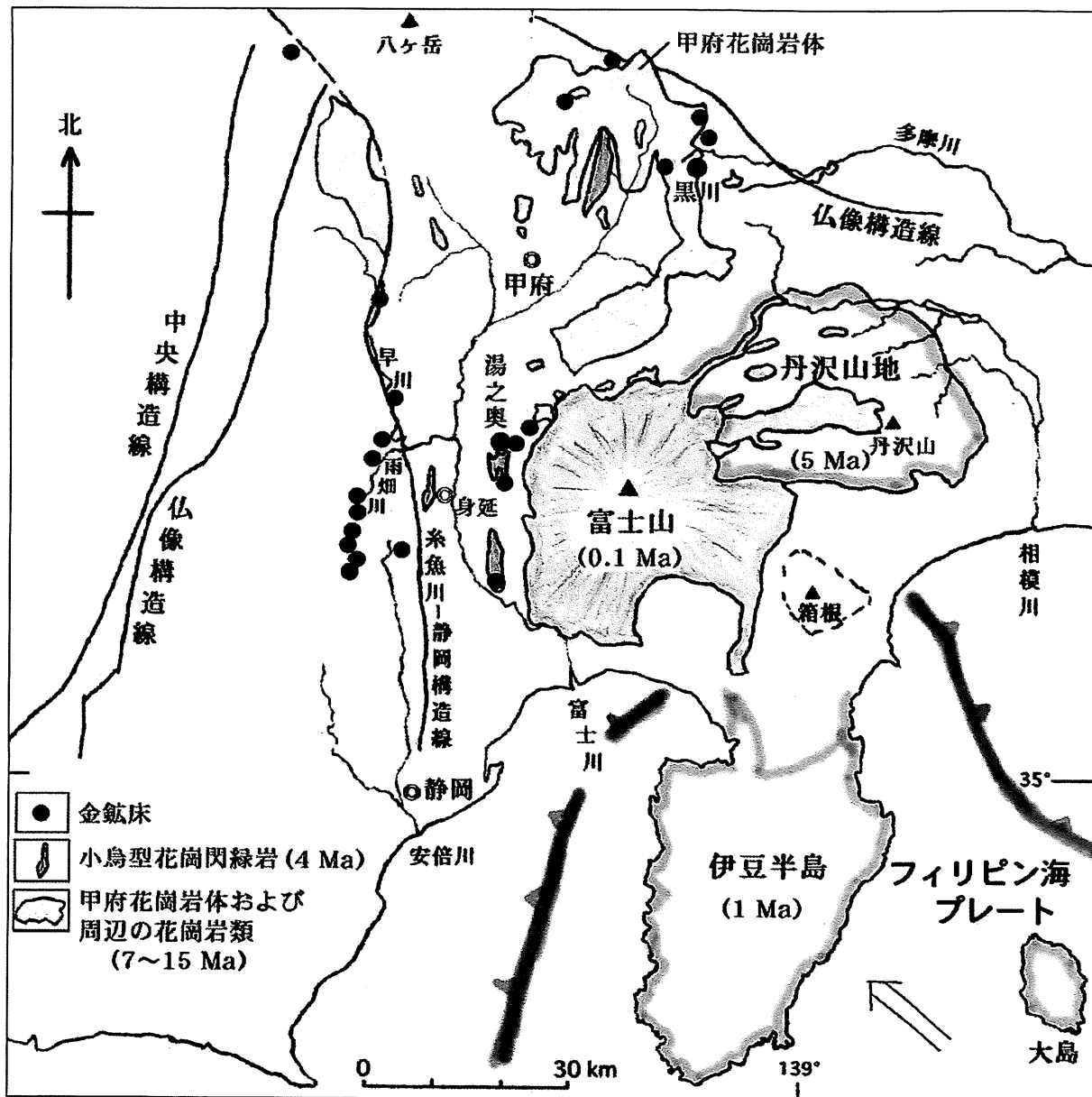


図1 富士山と湯之奥金山の関係を自然史の中で理解するための図。伊豆地塊（現在の伊豆半島）の衝突が大きく影響している。地質は、地質調査所（1982）および新妻（2006）による。数字の単位 Ma は百万年のことである。

引用文献

地質調査所（1982）日本地質アトラス。  
 井澤英二・曾南石・本村慶信（1997）山梨県下部町湯之奥金山の金鉱石について。資源地質学会第47回年会講演会講演要旨、0-17。  
 新妻信明（1997）富士山の地質と新富士溶岩の古地磁気。静岡大学地球科学研究報告、第24巻、p. 27-41。  
 新妻信明（2006）南部フォッサマグナ 概説。日本地方地質誌 4 中部地方、朝倉書店、p. 374。

## 活動報告

### オータムコンサート in しもべ & 花火大会

9月16日(日)

秋の3連休にあたった日曜日、博物館イベント広場において、湯之奥金山博物館第1回日曜コンサート&花火大会を開催いたしました。

この日曜コンサートは、誰でも気軽に楽しめる「音楽」を通して、博物館に訪れていただき、多くの方々に下部の秋を楽しんでいただくという参加型の音楽会で、博物館としては初の試みでした。町内からも二人の方が演奏に参加してくれました。

午後3時30分から、博物館多目的ホールで、フルートやピアノなど繊細な楽器による屋内コンサートが行われ、美しい音色が館内に響き渡りました。1時間弱ほどの屋内演奏会が終わった後は、博物館テント下にて約50人の楽団員の皆様によるオーケストラコンサートが始まりました。軽快な司会によって進行していく音楽会は、NHK大河ドラマ「風林火山」のテーマソングで、壮大にオープニングを飾りました。そして、「となりのトトロ」のテーマ音楽など、誰もが聞き覚えのある馴染みのある作品が次々と演奏され、客席の皆様は楽しそうに聞き入っていました。

また客席から、オーケストラの指揮を執ってもらおうというアトラクションもあり、指揮者に名乗りを上げた高岡伸五さん(富士市・博物館友の会会長)は、プロ顔負けのアクションで一曲(星条旗よ永遠なれ)指揮を執り、演奏を終えた後のインタビューでは「次はもっと上手に出来るように練習してきます。」と満足そうに笑顔で答えてくれました。

1時間ほど続いた屋外コンサートも大きな拍手の中で幕を閉じました。



指揮を執る高岡さん

演奏会が終わり辺りが暗くなってくると、いよいよ花火大会の始まりです。「大人の隠れ家的花火大会」と銘打ったこの花火大会は全席指定席で、すぐ目の前で花火が上がる迫力のあるものでした。さらに音楽に合わせての花火ですから、楽しみも2倍といったところ。またメロディブリッジからのナイアガラ花火も壮観でした。とにかく見た方みんなが「とても良かった」「来年も開催されますか？」などという期待のお言葉、満足の言葉をたくさんいただきましたが、それくらい迫力のある、素敵な花火大会となりました。

残暑の厳しい一日でしたが、楽団の皆様、準備に関わってくれた皆様のおかげで、盛況のうちに終わることが出来た日曜コンサートは、この規模での野外コンサートとしては全国的にも珍しいとのことですが、博物館の継続事業として続けていきたいと考えております。

### 平成19年度公開講座(第51回~55回)

10月~

本年度公開講座は、黄金の国ジバングの深層を探るシリーズ③として、「金・銀鉱山遺跡と黄金文化」をテーマとして、全5回中、既に3回を盛況のうちに終えております。

今年度初回を飾った通算第51回公開講座は10月20日(土)に、「世界遺産『石見銀山』遺跡~その歴史と登録までの道筋~」と題して島根県大田市教育委員会教育部長の大国晴雄先生にご講演いただきました。

11月10日(土)の第52回は「国指定史跡『佐渡金

山遺跡』の歴史と登録への取り組み」と題して、新潟県教育庁文化行政課副参事・世界遺産登録推進室の小田由美子先生にお話をいただきました。

12月8日(土)は「平泉の文化遺産」と湧谷の国指定史跡「黄金山産金遺跡」と題し、平泉の文化遺産・世界遺産登録推進書作成委員会委員長の工藤雅樹先生にお話をいただきました。

石見、佐渡、平泉といずれの地も金銀山を文化遺産として周知し活用していこうという運動を展開しており、その現場に携わっている先生方の文

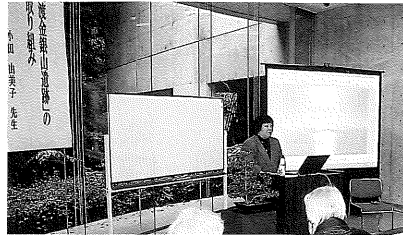
化遺産との直接的な関わり方についてのお話にも、毎回、聴講者からの質疑応答も活発で聴講者の知的好奇心を満たす講演会となっており、生涯学習の場としてこのような講座の必要性を感じます。

1月は当館の谷口一夫館長が講演し、2月は

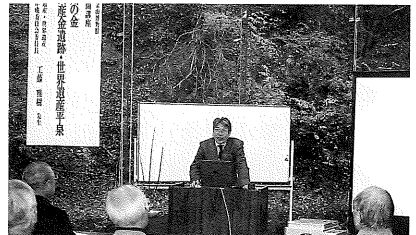
今年度最後の講座の締めくくりとして「黄金の国ジパングの世界遺産登録の可能性」と題して、奈良独立文化財研究所の村上隆先生にご講演いただきます。残すところ2回となった公開講座ですが、多くの皆様の聴講をお待ちしております。



大國先生 (10月)



小田先生 (11月)



工藤先生 (12月)

第54回	1月19日(土)	国指定史跡「甲斐金山」の歴史と今後の取り組み	谷口一夫
第55回	2月9日(土)	「黄金の国ジパング」の世界遺産登録の可能性 ～日本金銀鉱山遺跡の現状を総括～	村上隆

## 秋の遺跡見学会 (麓金山、日影沢金山)

10月、11月

毎年恒例の遺跡見学会ですが、「武田領内駿河地方の金山」をテーマとして10月21日(日)は、富士・麓金山遺跡見学会(静岡県富士宮市)、11月17日(土)には、梅ヶ島金山遺跡見学会(静岡県葵区)を開催いたしました。どちらの見学会も県内外から定員を超える多くの方々のご参加をいただき、無事に終えることが出来ました。

10月の麓金山遺跡見学会では、案内役として金山衆末裔の竹川家より竹川将樹氏に務めていただきました。坑道や住居跡、金鉱山を焼いた窯跡など、いろいろな話を交えながら説明していただきました。湯之奥金山と同じ毛無山に、尾根を挟んで隣同士にある麓金山は、操業期から湯之奥金山との関わりも深く、文献資料なども数多く残されており、戦国期金山の実態を考察するのに大変重要な遺跡です。

晴天にも恵まれ、毛無山尾根から見る富士山も綺麗に映えた気持ちのいい一日でしたが、厳しい登山道が続き、遺跡までの登山は大変だった様子も見受けられました。今回も昭和山岳会の皆さんや、竹川氏の適切なアドバイスをいただきながらの登山だったので、山肌の急な斜面に位置する坑道見学も出来、30人を超えた参加者の皆さんは大いに学習し、麓金山の歴史に触れました。

また、翌11月に開催した梅ヶ島・日影沢金山遺跡見学会も無事に終えることが出来ました。

天正3年(1575)に発見されたと伝えられている日影沢金山遺跡は、安倍川の源流「日影沢」



竹川氏の説明を受ける参加者

にあり、梅ヶ島温泉に程近い場所にあり、古くから身延との交流もあります。

詳細な調査はされていませんが、ハイキングコースとして遊歩道も整備されており、非常に歩きやすい現場で、山肌に残る住居跡の石垣をはじめ、貴重な遺跡がはっきりと残り、今なお往時の栄華を物語っています。特に、日影沢金山金堀衆とその家族の墓とされる墓地群は、「塔頭の尾根」と称され、刻まれた文字が判読出来ないものや、半分にかけてしまったものなど、無数の石塔群が道中脇に立ち並ぶその様子には圧倒されます。

案内役を務めていただいた静岡市葵区文化財担当の大村和男氏は、参加者全員に図録を用意していただき、現場でも親切で丁寧な説明をしてくださるなどの対応に参加者の皆さんからも大好評でした。

遺跡見学会はテーマを変え、次年度も計画していきます。楽しみにしててください。

# 博物館運営委員委嘱及び運営委員会

12月7日(金)

平成19年度第1回運営委員会が招集されました。第6期となる運営委員は前期委員の皆様へ引き続きのお願いをいたしました。委嘱式後、委員長と副委員長が選出され、博物館の現状と運営についての協議がされました。

開館11年目に入り、従来の事業も充実させながら、湯之奥茅小屋金山遺跡の調査に着手したいという事務局の報告を受け、萩原委員長はじめ、委員からは、調査に対しての意見と同時に、新規調査が実現すれば国の史跡として追加指定を受けるほど重要性をもつ遺跡であるから、調査自体の重要性、必要性を町の中で理解し、明確な位置づけを行った上で、調査に向けて準備を進めていただきたいという意見がとりまとめられました。併せて館の今後の運営方針についても意見が交わされ、活発な委員会となりました。

博物館の有する教育的機能や学術文化施設としての充実を図り、運営方針や展示計画などについて調査研究などを行い館長に提言する任務を持ったこの委員会は、学識経験者や知識経験者など選出区分と定数から、次の10人の方に委嘱され構成されています。任期は19年度から20年度の2年間となっています。

職名	氏名	住所	選出区分
委員長	萩原三雄	甲府市	(学識経験者)
副委員長	矢崎崇	身延町	(知識経験者)
委員	笹本正治	松本市	(学識経験者)
	十菱駿武	八王子市	(学識経験者)
	堀内真	富士吉田市	(学識経験者)
	堀内亨	富士吉田市	(学識経験者)
	西脇康	武蔵野市	(知識経験者)
	松木慶光	身延町	(町議会議員)
	石川茂男	身延町	(町文化財審議委員長)
	渡辺美雪	身延町	(知識経験者)

## 博物館日誌 (平成19年9月~12月)

日	内容
9月13日(木)	NHK甲府「かんすけ君が行く」取材撮影
16日(日)	日曜コンサート「オータムコンサート」三日月&花火大会
17日(月)	川の都フォーラム出張砂金採り(於和紙の里)
19日(水)	生涯学習フェスティバル出張砂金採り(於身延総合文化会館)
21日(金)	敬老の日
21日(金)	NHK甲府「かんすけ君が行く」OA
21日(金)	早川南小出前博物館
21日(金)	冬時間・衣替え
21日(金)	梅ヶ島・日影沢金山遺跡下見
21日(金)	南都留地区社会教育委員会臨時研修、『ふるぶ山梨』取材
21日(金)	麓金山遺跡下見、池田小6年遠足
21日(金)	湯田小4年遠足
21日(金)	一宮北小4年、日野春小6年遠足、身延山御会式
21日(金)	UTY「ウツナイな木曜日」撮影
21日(金)	第51回公開講座・大國晴雄氏講演、ドイツ大使館一行来館
21日(金)	麓金山遺跡見学会
21日(金)	久那土中町内めぐり、「ウツナイな木曜日」OA、山梨日日新聞取材
21日(金)	山梨教職員研修・一宮西小遠足、豊岡小遠足、大鎌田保育園遠足
21日(金)	FM甲府PR出演
21日(金)	文化の日、教職員研修(於下山中)出張講座
21日(金)	親子映画鑑賞会「南極物語」
21日(金)	出張砂金採り(於クラフトパーク)
21日(金)	巡回展資料借り入れ
21日(金)	巡回展資料借り入れ
21日(金)	丹波山村一行来館、ことぶき動物学研究所授業
21日(金)	依田良平氏(町内在住)菊の花展示
21日(金)	第52回公開講座・小田出美子氏講演
21日(金)	大月東中県内めぐり、峡南行政相談員研修
21日(金)	雑誌『KURA』取材
21日(金)	日影沢金山遺跡見学会
21日(金)	県民の日・常設展示観覧無料開放、ふれあい小さな旅・下部地区
21日(金)	下山中1年町内研修
21日(金)	勤労感謝の日
21日(金)	SBS放送「からあげ」撮影・取材、館内清掃メンテナンス、植栽
21日(金)	館内清掃メンテナンス、植栽
21日(金)	下山穴山館跡現地確認
21日(金)	展示物燻蒸処理搬出
21日(金)	冬のイルミネーション点灯(12月迄)
21日(金)	山梨県史跡協会・おまんの方現地視察
21日(金)	巡回展「山梨の遺跡展2007」終了
21日(金)	博物館運営委員会
21日(金)	第53回公開講座・工藤雅樹氏、親子映画鑑賞会「ハチ公物語」
21日(金)	燻蒸処理終了・資料搬入
21日(金)	山梨県史跡協会
21日(金)	館内機器メンテナンス
21日(金)	わんぱく丸メンテナンス
21日(金)	県内教育事務所長・副所長会議
21日(金)	年末休館(1月1日迄)

### 編集後記

お正月もあっという間に過ぎていきました。今年の冬は例年に比べて寒さが強い気がします

が気のせいでしょうか。大寒の頃が一年で最も寒いとされますが、暦どおりの寒さを感じます。新年早々、風邪をひかないよう、そして、この一年を元気に乗り切りましょう。

## 博物館だより 第43号 平成20年1月10日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 電話 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003  
博物館HPアドレス [http://www.town.minobu.lg.jp/local\\_minobu/kinzan/index.html](http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html) 博物館Eメールアドレス [yunoking@town.minobu](mailto:yunoking@town.minobu)